

中学受験をさせるべきか なやんでいる保護者様へ
知らずに はじめてしまうと損をする
知らずに 手を打っておかないと損をする

中学受験の メリットとデメリット



中学受験をする、しないに
かかわらず、
小学生の保護者様に
知っておいていただきたい
情報ばかりです。

中学受験の学習内容は 見方によっては、
高校受験よりも難しく、学習量も2倍以上になります。

たとえば社会の地理。学習量もむずかしさも、少なく見積もっても中学校の2倍以上です。中学生が1年間かけて勉強するより濃い内容を、中学受験では小学生にたった半年で指導します。15歳の中学生でもむずかしい内容を10～12歳の小学生に、半分の期間で学習させようというのですから、落ちこぼれる子が続出するのは当たり前のことです。ちょっと学校の成績が良いからと簡単に中学受験に挑戦するとかなり痛い目にあってしまいます。

量も内容も小学生離れした学習をするのですから、遊ぶ時間が少なくなるのはもちろん、大好きな習い事をあきらめなくてはならないのは覚悟しましょう。また、塾や保護者に無理やり勉強させられ、勉強ぎらいになったりすることもあります。ストレスで頭の毛をかきむしる子がでてきたりすることもあります。

中学受験をさせる保護者の方は、どうしてそんな無理をさせてまで中学受験をさせようと考えているのでしょうか。

その1つの理由は、「大学受験の合格者数がケタ違い」だからでしょう。次のページの表をごらんになってください。

MARCHレベル（明治大・青山大・立教大・中央大・法政大の総称）までの有名大学の合格者数を学校別にまとめたものです。

私立中進学者全体のほうが圧倒的に有利ではありませんか？



◎ある年度の高校別大学合格者数

	東 京 大 学	京 都 大 学	東 京 工 業 大	一 橋 大	東 北 大	北 海 道 大	筑 波 大	首 都 大 東 京	東 京 外 語 大	千 葉 大	横 浜 国 立 大	早 稲 田 大	慶 応 大	上 智 大	東 京 理 科 大	立 教 大	明 治 大	青 山 学 院 大	中 央 大	法 政 大	学 習 院 大	
公立	浦和高校	36	7	14	6	16	6	32	9	1	26	13	124	79	24	115	48	146	11	73	25	18
	浦和一女	7		1	3	4	6	7	5	6	13	5	103	31	25	68	122	97	14	36	53	22
	大宮高校	6		11	4	3	5	1	7	4	9	3	90	34	34	114	113	148	18	43	44	18
	市立浦和	1		2			2	6	5		4	3	63	8	10	37	95	91	27	26	75	11
	浦和西					1		1					7	1		5	21	32	2	8	35	9
	浦和南								1				1		1	3	5	5	1	3	9	2
	浦和北														1	1	4	2	3	2	9	
	浦和東																3	1	4	2		1
	大宮北												5			1	6	15	4	1	12	7
	大宮光陵						1	2								1	6	3	2	1	6	2
	与野															4			3		3	
	大宮武蔵野																					
	大宮東																					
	大宮南																					1
	大宮西													1		3		1	4	1	2	
私立	岩槻																1		2	1		
	岩槻北陵																					
	いずみ																					
	川口北							1	2				1			6	18	18	2	8	31	3
	川口																		1		1	
	川口東																					
	川口青稜																					
	市立川口															1		1			4	
	県陽																					
	川口総合																					
私立	青山学院	1	1	2				1				19	20	18	21	14	9	366	5	8	2	
	●麻布	77	8	21	11	5	4	3	2		6	2	143	136	24	34	13	34	2	33	4	2
	足立学園				1			2	1				7		2	7	9	15	5	10	17	9
	●跡見学園			1					3		1		7	11	9	10	26	18	19	8	23	16
	郁文館				1				2				8	1	4	7	15	15	4	9	15	7
	江戸川女子							1	2	3	6		39	20	28	22	49	32	18	15	28	26
	●桜蔭	69	3	3	5	2	1	7		2	16	2	158	80	27	56	24	41	5	15	13	1
	●大妻		2	1				1	9	4	1		38	15	18	22	59	64	12	22	39	19
	海城	34	7	9	15	6	5	10	5	2	7	9	178	138	34	140	33	95	2	50	18	7
	開成	138	3	5	9	7		7	2	2	9		246	185	18	76	21	45	1	57	14	2
	川村												1	2	3		3	1	2		1	4
	北豊島													1		1		1	2		1	
	共栄学園							1					2		1	9	6	7	2	8	8	
	●暁星	7	1	1	5	2	1	2	2	2	1	3	67	44	27	18	16	26	2	19	11	2
	●共立女子			1					4		3	1	41	20	19	12	55	43	23	29	20	18
	京華							1	2		1		6		1	13	4	11	5	7	19	4
	京華女子										1			1	1	1	2					
	京北																	3		1	1	1
	●香蘭女学校									1			10	4	3	2	1	7	7	2	4	3
	桜丘			1									10	2	4	5	9	9		7	12	4
	●品川女子学院						2	2	2		1	1	5	4	8	6	17	25	18	4	14	5
	●芝	12	3	15	4	3	2	4		1	8	3	96	63	31	67	46	81	23	51	24	19
	芝浦工業大			1				2	1		1		4	3	1	11	8	16	2	7	9	
	●渋谷教育学園渋谷	9	1		5	5	4	5	2	1	5	7	96	47	24	43	41	47	12	34	27	
	十文字										1		14		3	1	9	4	4	3	10	3
	淑徳			1				2	6				23	11	2	26	19	45	11	23	35	2
	淑徳巣鴨												6	1	1	3	15	16	8	8	26	1
	順天			1				1			4	3	13	3	5	18	14	24	16	19	42	6
城北	15	6	10	8	8	2	3	4	2	6	7	137	88	30	139	40	107	7	67	34	14	
巣鴨	22	2	7	7	6	2	19	5	1	8	4	79	67	25	53	32	57	9	45	16	7	
城西大城西															1	5	2	3	1	8	2	
●頌栄女子学院			2	5		1	2	6	3		3	99	71	58	25	90	49	49	17	25	9	
●女子学院	23	4	6	6	1	1	2	2	6	7		165	73	62	32	53	46	15	17	13	12	
●女子聖学院							1	1		1		7	1	2		7	9	5	7	5	3	

* さいたま市・川口市から通える範囲の学校。 私立高校は多数のため、あいうえお順で、「し」までを掲載。●は中学受験でないと入れない学校。

少子化により、大学全入時代といわれていますが、有名大学はまだ狭き門です。

◎ メリット 1 大学受験に圧倒的有利

私立中学に進学すると、ほとんどの学校が中学・高校の6年間のうちの最初の5年間で、高校までのカリキュラムを終了します。最後の高3の1年間は受験勉強にあて、志望校の現役合格を目指します。

それとは対照的に、公立高校の大半（トップ進学校をのぞく）では、大学受験直前まで高校のカリキュラム終了を目指した授業が行われます。受験勉強が他の私立高校より遅れてしまうのは仕方ないかもしれません。

中学から大学受験を目指してゆとりを持って進められる私立中学進学者と、高校から初めて大学受験を視野に入れ、短期完成を目指す公立中進学者の差はここに出てきてしまいます。



カリキュラムの問題だけではありません。学習内容を吸収する能力の格差も小6終盤ではかなりのものになってしまっています。

ヒトの脳は10歳までに90%以上成熟すると言う脳科学者もいらっしゃいます。カラダより早く成熟する脳を、10歳までの時期に鍛えた者と鍛えてない者とでは大きな差になるのは仕方ないことでしょう。

中学受験の勉強を自力でスラスラ解いている生徒の理解力は、高校レベルの学習を理解できるほどです。



中学受験をさせるべきか なやんでいる保護者様へ

公立小学校の学習だけで、鍛えられなかった小学生とは、まさに大人と子供の能力差になってしまっています。



小6時にこれだけの能力格差ができてしまっているのに、大学受験では同じ土俵で合否の勝負をしなければなりません。能力の高い中学受験組は短期間でグングン知識を吸収し、順調に成績を上げていきます。

成長する時期に伸びなかった身長を伸ばすことがむずかしいように、知識を獲得する能力を伸ばすこともかなり難しいことになります。

最近では有名私立ほど高校からの入学ができなくなってきました。中高一貫教育で大学受験を目指す学校が増えてきています。

そうすると、今後、中学受験組と高校受験組の大学受験合格者の差はますます広がっていくのではないのでしょうか？ 有名大学に行きたいなら中学受験をするか、高校受験でトップ校に入ることが必須になってくるのでしょうか。小中高の生徒を指導している私達にはそう思えてしまいます。

◎ メリット 2 教育環境・理念教育

私立中学・高校は建学の理念を持っています。
「なぜ学校をつくったか、どんな若者を育てたいか。」
ということです。



社会で必要とされる人材に育てることが教育理念の根本である私立校が多いので、理念に基づいたさまざまな経験をさせている学校があります。

ある有名女子校は、大学進学がゴールではなく、
28歳になったとき、社会に出て一番輝ける人生を
送ることを目標に教育活動を展開しています。



そのため、中学、高校在学中から一般企業の社員とともに商品開発に携わったりしています。高校生が普通の会社の中で自分の考えた商品のプレゼンをさせてもらっています。商品開発を通して、仕事のやりがい、社会への貢献などのよろこび、そして難しさ、厳しさも現場の会社員から教えてもらえるのです。企業も遊びではないので、本気で学生と商品作りをしてくれます。

この女子校は、飲料メーカー・製菓メーカーなどと
コラボして、女子高生の作った商品を毎年、店頭に送り
出しています。



これだけの経験をさせてもらった生徒たちは、社会との明確な接点を見出し、どんな大人になりたいのかを明確に意識しながら、大学受験を目指していくことになります。自分の人生をどう生きるのかを考えて中学・高校生活を送るのです。 (印刷ミスで6ページはございません)

公立高校は教育を広く等しく受けさせる目的で建てられています。先ほどの私立校のように理念に基づいた教育を受けられる可能性は低くなります。明確な理念教育を持つ私立はやはり魅力的ですね。

一度、私立校の説明会に参加なさってみてください。感動して涙が止まらなくなる学校がいくつもありますよ。

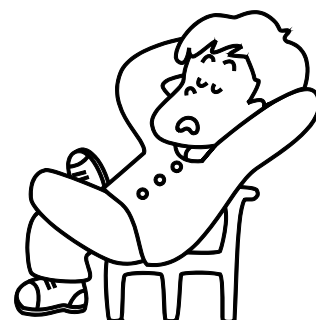


ええっ！
ここまで考えて
指導してくれるの！？

◎ メリット3 思春期に受験を迎えなくてよい

公立中学に進学すると、思春期を迎えたころ
高校受験の勉強をするようになります。

思春期で反抗期を迎える時期に受験勉強という
本当に複雑な問題を親子で乗り越えなくてはなら
ないのは、子供にとっても、親にとっても、
本当につらく大変なものです。



親は勉強しないわが子にいつもイライラし、口からでるのはいつも
小言ばかり。もちろん親も小言ばかり言いたくない。でも受験生のわ
が子の様子を見てみると、言わずにはいられなくなります。

カラダと態度だけは一人前のわが子は親の言うことは全く聞きませ
ん。親子喧嘩が日々勃発します。

こう考えると、親の話しも聞いてくれて、部活に追い回されたり、
思春期の影響を受けない小学生のうちに受験を終えてしまうのも悪く
はないのかもしれないね。

そのほか、こんなことも思春期にはありがちです。

- ・ 成長期でいつも眠い。勉強するとすぐ寝てしまう。
- ・ 異性・ファッションに興味が出てくる頃。受験どころではない。
- ・ 仲間を大切に作る時期。大切な学校選びが「〇〇ちゃんといっしょ」？

◎ メリット4 多感な時期に 悪い影響を受けにくい

首都圏で中学受験をする生徒の割合は25%といわれています。これらのご家庭は、教育の役割をそれなりに重要視していらっしゃる方が多いと思います。

お子様が小さな頃からしつけ教育などに気を使われていらっしゃるご家庭が多いようです。

そんな家庭環境で育った子供達だけが受験し、入学してくるわけですから、悪いことにわが子が染まる可能性は公立中学よりはかなり低いといえます。

逆に良い環境に影響を受ける可能性も高いのではないのでしょうか。

進学予定の公立中学の公開授業を見に行き、急に中学受験をすることを決意する保護者も少なくありません。

保護者様は子供が育つ環境を用意することしかできません。多感な思春期にわが子が過ごす環境として私立中学を選ぶのは悪くない選択だと思います。



× デメリット 1 小学生にはむずかしすぎる学習内容

理系の大学生でもてこずる算数の問題や、大人や大学生でも知らない理科・社会の問題、高校受験の問題と間違えるほどの国語の長文。



高校生でもむずかしい学習を1.5~2年くらいかけて学習します。それも4科目です。毎日4・5時間勉強しても身につくかどうかかわからない量です。そのレベル、そしてその量、とても小学生ばなれしています。夜の12時まで勉強するなんて、当たり前の世界です。

このむずかしさと量のため、中学に合格する前に勉強嫌いになり、中学受験をあきらめていく子供も少なくありません。

あきらめる程度なら良いのですが、完全な勉強嫌いになり、公立中学進学後も全く勉強をしようとしないう子になってしまうなんてこともあります。

また、先述しましたが、難しい問題を長時間勉強しなければならないストレスから、髪の毛をむしるほど精神的に不安定になる子も出てきます。



× デメリット2 遊べません。習い事もあきらめてください

日々の勉強は毎日夜中の12時過ぎまで続きます。
でも、それだけやっても偏差値は上がりません。

なぜなら、中学受験をする周りのエリートたちは
短時間でも身につけられる恐ろしいくらいできる頭を
持っています。その子たちも夜中の12時まで勉強
しているのです。普通の能力の子は時間をかけ、
少しずつ能力を彼らに近づけるしか手だてはありません。
成績を上げる魔法はないのです。努力あるのみ。
お子様に能力が備わってくれば、徐々に成績は上がるはずです。
(やるべきことをしていればですが。)

学習内容の理解が危うい子はダブルスクール(2つの塾に通う)も
当たり前になります。進学塾に通いながら、個別指導の塾に通うので
す。進学塾の授業対策を個別指導塾でおこなうのです。

毎日、学校から帰ると塾、塾から帰るとテレビも見ずに勉強。とい
う生活が毎日続きます。日曜日は有名進学塾の公開模擬試験や受験校
の見学。毎日が中学受験を中心に動いていきます。

ほかに熱中している習い事があるお子様は、中学受験はなさらない
ほうがよろしいかと思えます。習い事はできても週1回程度じゃない
でしょうか。

夏休みなどの季節の休みも塾の講習会と自宅学習に追われます。
この時期も勉強は休めません。むしろ量をふやさなければなりません。
この時期は唯一復習に時間をかけられる時期だからです。

× デメリット3 塾代は10万円超を覚悟してください

中学受験は、むずかしさと量の多さで、進学塾に通う子のほとんどが勉強についていけません。

小6にもなると、上がらない成績にあせり、わらをもつかむ思いで個別指導塾のサポートを受け始める子が増えてきます。前述したダブルスクールです。中学受験の大半の方がダブルスクールをしていますが、しやるのではないのでしょうか。

進学塾に5万円、個別指導塾に5万円以上。結局毎月10万円以上も塾代に消えるという方も少なくありません。

「それですめばまだいい方」「わが子が有名進学校に合格できるなら安いもの」と先輩保護者からの声も聞こえてきそうです。

でも一般的な塾に通って中学受験をするとかなりの月謝を覚悟しなければならないのは事実です。

講習期間はそれにプラスして出費がかさみます。

親もたいへんです。

運よく、ダブルスクールをしなくてすめば、毎月の月謝は4～6万円ですむかもしれませんが。それでも学習教室や習い事から比べたらかなりの出費ですね。

× デメリット4 合格する可能性が低い

大好きな習い事やテレビや遊びを毎日毎日我慢して、毎月10万円近く塾代を払って、がんばった中学受験ですが、目標校に合格できるのはほんの一握りのお子様だけになります。(人気校になると合格者は受験者の20%前後です。)

「第一志望だから、行きたいから」と希望だけで入学させてくれるわけではありません。

受験の倍率は2～6倍。それも、中学受験の勉強を毎日やり抜いてきた頭の良い子たちだけが受験しているのです。その中で合格をもらわないとならないのです。その大変さは高校受験を上回ります。どちらかというとなら大学受験に近いのではないのでしょうか。

滑り止めの学校で合格できれば良いのですが、「受験した学校を全部落ちてしまった」という子も少なくありません。

能力と努力が十分で、試験当日の運が良かった子だけが合格を手に入れます。

努力は必ず報われるといたいのですが、そうならないのが中学受験です。

× デメリット5 保護者がお子様をつぶしやすい

わが子の成績から離れすぎた一流校を目標に設定する保護者様が多くいらっしゃいます。目標校で、到達できない場合、変更していただけるのであれば良いのですが、いつの間にか絶対に受験し、合格しなければいけない学校になっているケースがかなり多くあります。

保護者様の期待に応えられるお子様であれば良いのですが、一流校を受験できるのはほんの一部の優秀すぎる生徒さんだけなので、ほとんどの場合、保護者様のご期待に沿えない結果になります。

そんなお子様の多くは、自信もやる気も失い、勉強から逃げるようになってしまいます。

保護者様が高望みしすぎる原因は偏差値にあります。

中学受験と高校受験の偏差値はまるっきりちがいます。

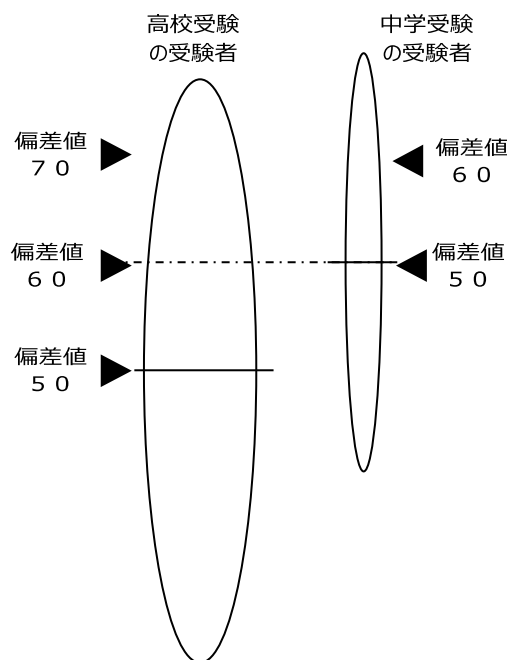
高校受験の模試は勉強が苦手な子も、得意な子もほぼ全員が受験します。その中で平均点をとるのはむずかしくないと感じられるでしょう。平均点の偏差値50というと、塾に通っていれば簡単にとれそうですね。

でも中学受験ではそうはいきません。これからお話しする数値のマジックをしっかりと保護者が理解していないと、保護者様ご自身がお子様の自信をズタズタにしてしまうことになります。

右の図をごらんになってください。

高校受験と中学受験の受験者を成績順に並べるとこのような図になります。

中学受験の模試は全小学生のなかで勉強が得意な子しか受験しません。その割合は約25%程度とされています。その集団の中で平均点を取ると、やっと偏差値50になります。



この偏差値50を高校受験の偏差値に無理やり当てはめると、およそ60~65という感じでしょう。公立高校受験で言えば2・3番手の進学校レベルです。公立中学校で上位10%の成績を取り続ける生徒が受験する学校です。それが中学受験の平均点です。

偏差値50という数字だけで判断すると大したことがないように思ってしまうかもしれませんが、かなり大変なことなのです。

中学受験の偏差値60は、浦和高校、浦和一女という県内トップ校に匹敵するくらいの成績だと私は感じています。埼玉県トップです。野球で言えば、県大会に優勝し、甲子園に出場するレベルです。

保護者のみなさまは県大会で優勝したことがございますか？ 県大会優勝がどれほど大変かはご想像いただけたと思います。才能があるのは当然で、優秀なコーチについてもらい、猛練習を積まないといけない快挙ですよ。

保護者様は県大会優勝レベルの偏差値60台の中学校を平気で目標校にし、お子様に絶対合格するよう、期待とプレッシャーをかけていきます。そのプレッシャーが良いほうに働けばよいでしょうが、そうとも限りません。

最悪なのは保護者様だけが先走り、合格するものと盛り上がっている場合です。お子様の現状を認められず、最後の最後までプレッシャーをかけ続けます。お子様は自信を失い、勉強から逃げる子になってしまいます。結局、中学受験で失敗し、公立中学でも勉強をしなくなり、大学進学もできなかった、なんて話は結構耳にします。

目の前のお子様が大切なのか、目標校に入るお子様が大切なのか、冷静にご判断いただきたいところです。

そして、保護者だけはお子様を最後まで信じて、不合格になっても支えていく覚悟を決めていただきたいです。そうでないと、不合格になったとき、お子様が一番かわいそうな思いをします。

デメリットになるかどうかわかりませんが、こうなる危険性は受験間際になればどなたにも起こります。親力が試されているともいえるかもしれません。

× デメリット6 通学が大変。学費も大変

がんばって中学受験に合格できた場合、つぎに待っているのが、入学手続きと納入金の問題です。

学費は年間35～86万円。学費を含めた初年度納入金は100～160万円。寄付金をお願いする学校もあるので、初年度納入金+αはご用意しておいてください。

私立に進学し、公立よりも高い可能性で有名大学に進学できるとすれば、この授業料は高いのか、それとも安いのか。それは保護者様のお考え次第です。

それから、通学するようになると定期代もかかります。

そして朝早い通学。学校の始まる時間は公立中学とあまり変わりませんので、公立中学のお子様方より30分～1時間は早く起きなければなりません。

昼食がお弁当の学校だと、保護者の方はお弁当も用意しなければなりません。



ここまで読んで、「ああ、うちの子大学進学は無理、中学受験はやめよう。」と思った方、お子様の一生に大きな影響を与えることです。カンタンにあきらめないほうが良いのではないのでしょうか。

お子様の能力にあわせて指導する中学受験も躍進館にはございます。中学受験をせず、公立中から大学受験を目指す指導もございます。

小学校の数年でお子様の将来が大きく変わります。お子様の今後の教育環境は保護者様が作っていくのです。ご家庭の方針にあう指導を見つけてください。カンタンにあきらめるともったいないですよ。